

4 ワーキンググループによる研修用動画作成

4.1 目的及び方法等

【目的】

令和7年度は、事故防止に向けた教員研修用の素材として、これまでの講演テーマの中から有識者によるセミナー型の解説動画を作成した。テーマは「学校の水泳授業中の事故防止」として、水泳事故の危険リスクを理解するとともに、事故防止の対応方法を理解してもらう動画とした。

【方法】

動画作成のためのワーキンググループを設定し、動画のテーマと解説を担当する委員を決定した。担当委員と事務局とでオンラインによる定期的な打ち合わせを行い動画を作成した。

4.2 ワーキンググループ・メンバー構成一覧

ワーキンググループのメンバーは以下のとおりである。

図表 4.1 ワーキンググループ構成員 (五十音順・敬称略)

氏名	所属・職名等	専門分野
井口 成明	桐蔭横浜大学スポーツ科学部スポーツ教育学科長・教授	スポーツ教育・水泳
遠藤 大哉	日本体育大学ライフセービング部監督	地域スポーツ、ライフセービング
金岡 恒治	早稲田大学スポーツ科学学術院教授(公財)日本水泳連盟 参与・医事委員会副委員長	整形外科医・脊髄損傷・水泳他
佐藤 豊	桐蔭横浜大学スポーツ科学部学部長・教授	安全教育全般・運動部活動・水泳等
木宮 敬信	常葉大学教育学部教授	安全教育全般、球技・バスケットボール他
高汐 康浩	全国学校安全教育研究会会長(府中市立府中第八中学校校長)	安全教育全般
三宅 良輔	日本体育大学体育学部教授	スポーツ教育・組体操・動きづくり等
溝内 健介	清水法律事務所弁護士	弁護士・判例と事故防止
森 浩寿	大東文化大学スポーツ健康科学部 スポーツ科学科教授	リスクマネジメント(スポーツ全般・落雷他)
<オブザーバ>		
谷 雅也	独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付部 調査課長	災害共済給付、事故災害統計等
戸田 芳雄	学校安全教育研究所代表、明海大学客員教授	安全教育全般、事故検証

4.3 ワーキンググループ会議

ワーキンググループ会議での議事内容は以下のとおりで、各会議はオンラインにより実施している。
同グループによる「学校の水泳授業中の事故防止」に関する動画の概要は後掲。

図表 4.2 ワーキンググループ会議

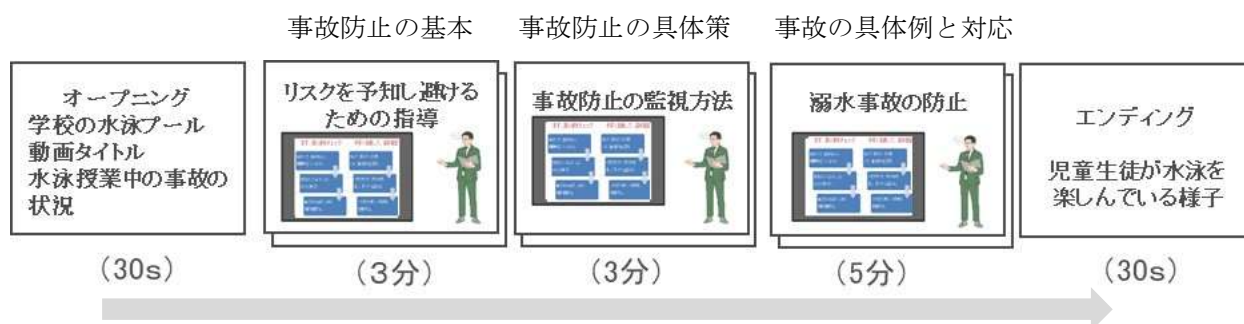
会議開催日時	会議の内容
第1回 令和7年7月30日(水) 10:00～12:00	○ワーキンググループ設置の目的と役割 ○セミナーの意見交換のテーマ設定 ○動画作成の進め方(テーマ、内容、作成スケジュール) ○解説部分の講師役割分担
第2回 令和7年10月15日(水) 13:30～15:00	○セミナーの意見交換の報告 ○動画作成の中間報告 ○今後の動画作成スケジュール
第3回 令和8年2月24日(火) 14:00～16:00	○動画の確認(構成、音声、デザイン等) ○ゼミナー全体のまとめ ○来年度事業実施に向けた課題

4.4 動画のストーリー

(1) 動画のストーリーボード

「学校の水泳授業中の事故防止」をテーマとして、本編と参考情報編に分けた。本編では下記のようなストーリーボードを作成し、それぞれの内容を検討した。参考情報編は本編を補完する具体的内容と、本編で扱った事故種(溺水事故)以外の事故を取り上げて解説している。

図表 4.3 動画(本編)のストーリーボード(12分)



(2) 講師解説部分の内容

子どもたちの危機意識が低下しているとの意見を踏まえて、本編の講師の解説部分では、第1に、事故の危険を予見し回避するための指導方法を解説する部分、第2に、事故防止の具体策として水泳中の監視方法を解説する部分、第3に、学校の水泳授業中の事故の中から溺水事故を取り上げ、事故状況とその対応案について解説する部分とした。

【事故の危険予見と結果回避】……………大東文化大学スポーツ・健康科学部 森 浩寿

- 事故の発生要因
- 事故防止の基本
- 危険予見と結果回避
 - ・指導者の問題
 - ・加害行為者の問題
 - ・児童・生徒本人の問題
 - ・施設設備の不備

【監視体制及び監視方法】……………日本体育大学ライフセービング部監督 遠藤 大哉

- 監視体制の意義と構築
- 監視方法の実践と方法
 - ・監視方法
 - ・ゾーニングとスキャニングの方法と種類

【水泳事故とその対応案】……………桐蔭横浜大学スポーツ科学部 井口 成明

- 溺水事故の原因の究明
 - ・2パターンの溺水事故
 - ・溺水者はなぜ確認できないのか
 - ・溺水事故を防ぐための対応案

* 各講師の解説資料は、後述する「6 参考」で紹介している。

